

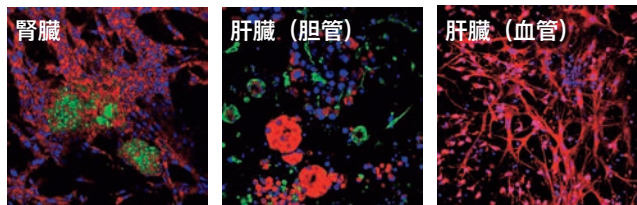
生体内に近い細胞環境を創出する三次元培養用基材 MatriMix (511)

コラーゲン, ラミニン E8 (511E8) 断片, ヒアルロン酸から構成される三次元培養用基材です。発生, 創傷治療の未成熟細胞外環境に近い組成により, 細胞の動性を誘導し, より複雑で多様性のある組織形成が可能です。

	MatriMix	基底膜成分 (マウス腫瘍抽出物)
コラーゲン型やラミニンアイソフォームの組み合わせを変更可能 (特注・要相談)	◎	×
生体内を模倣した組織化誘導	◎	○ (間質誘導に難)
ゲル強度のコントロールが可能	◎	×
細胞外マトリックスの模倣	○	○
構成成分の明確さ	○	×
成長因子 (不純物) 不含	○	×
基材の透明性	○	○
がん細胞オルガノイドでの間質誘導	○	×
各臓器オルガノイドでの細胞分化誘導	○	○

使用例

■各臓器のオルガノイド形成誘導



PECAM-1/Podocalyxin/DAPI Albumin/CK19/DAPI PECAM-1/DAPI
マウス発生期臓器由来細胞を MatriMix を用いて三次元培養した。細胞の集合組織化が観察された (培養 7 日目, 各マーカーによる免疫染色)。

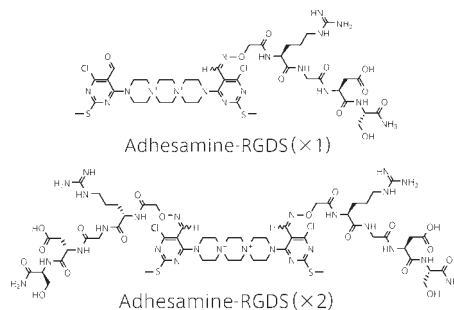
キット内容

- A 液 : 1.85×DMEM, ラミニン 511E8 断片/ヒアルロン酸架橋物 (3.6 ml)
 - B 液 : 2.5% NaHCO₃ 溶液 (1.0 ml)
 - C 液 : 5.0 mg/ml コラーゲン溶液 (3.0 ml)*
- ※プロトコル通りに混合した場合, 約 6.7 ml 分のゲルが作製できます。
*2022年2月1日より, C液 (コラーゲン溶液) の濃度が 2.5 mg/ml から 5.0 mg/ml に変更されています。これにより, 細胞が沈降しにくくなりました。詳細は製品添付資料をご確認ください。

品名	メーカー 商品コード	包装 / 価格 (¥)
MatriMix (511)	NIP 899001	1 set / 25,000

アノキス阻害物質 アドヘサミン-RGDS 誘導体

RGDS ペプチドを有するアドヘサミン誘導体で, アノキス (細胞-マトリックス間接着の喪失により誘導されるアポトーシス) 阻害活性を示します。培養液に添加することで, 非接着状態の細胞の生存率を改善します。



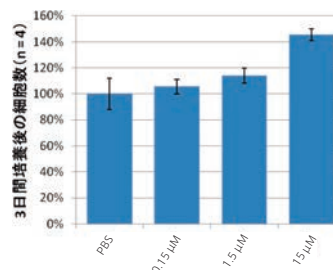
特長

- 合成化合物のため, ロット間差が少なく, 感染リスクも低減されます。
- アドヘサミン-RGDS (×1) とアドヘサミン-RGDS (×2) があり, アドヘサミン-RGDS (×1) の方が高いアノキス阻害活性を示します。
- 培養液に添加するだけで使用できます。

参考文献

Kusamori, K., *Biol. Pharm. Bull.*, **44** (8), 1029~1036 (2021).
[PMID : 34334488]

使用例



間葉系幹細胞でのアノキス抑制作用

ヒト骨髄由来間葉系幹細胞 (hMSC) を, 細胞が接着しにくい条件で, 0.15, 1.5, 15 μM のアドヘサミン-RGDS 誘導体または PBS (コントロール) を添加した無血清培地を用いて 3 日間培養した (グラフは PBS の細胞数を 100% としてプロット)。

品名	メーカー 商品コード	包装 / 価格 (¥)
アドヘサミン-RGDS (×1)		
NGS	AD-RGDSx1-0021	0.2 ml / 18,000
NGS	AD-RGDSx1-0025	5×0.2 ml / 72,000
アドヘサミン-RGDS (×2)		
NGS	AD-RGDSx2-0021	0.2 ml / 18,000
NGS	AD-RGDSx2-0025	5×0.2 ml / 72,000

※購入時に使用目的確約書が必要です。